

令和元年度 第1回地域家庭教育推進会津ブロック会議

1 開催日 令和元年6月5日（水）14：20～17：00

2 会場 ルネッサンス中の島（会津若松市上町）

3 出席者（敬称略）

鶴見常夫	会津坂下町坂下コミュニティセンター長
成澤勝蔵	会津若松市父母と教師の会連合会会長
別府 豊	北会津地区PTA連絡協議会会長
小林裕子	耶麻地区小中学校PTA連絡協議会会長
山本 靖	北会津小中学校長連絡協議会会長
川村千文	学校保健会北会津支部養護教諭部副部長
秋山理恵	秋山ユアビス建設株式会社取締役
大越ひかり	会津若松市教育委員会生涯学習総合センター主事
荒川昭典	猪苗代町教育委員会（家庭教育担当者）
大竹亜紀	喜多方市教育委員会（家庭教育担当者）
田辺弥恵子	会津坂下町教育委員会教育課生涯学習係主事
矢吹貴美	会津地区社会教育指導員連絡協議会会長代理
増子恵二	福島県家庭教育インストラクター 会津さざなみの会会長
幸田久美子	喜多方市家庭教育支援チーム“もも”代表
酒井美代子	北塩原村学校支援地域本部コーディネーター
霜鳥佳代子	会津若松警察署生活安全課専門少年警察補導員
※（事務局）	会津教育事務所 5名

4 開催趣旨

この会議は、会津地域の家庭教育の現状と課題を把握し、課題解決に向けた実践活動を推進するため、各郡市PTA連合会・学校代表・企業代表・地域代表による協議を行うものです。

平成30年度より、「メディアコントロール（SNSとのつきあい方を中心に）」をテーマに協議してまいりました。2年次となる今年度は課題解決に向けた具体的なアプローチに焦点化して協議を深めていきます。3年次では協議の成果を域内に広く発信していきます。

5 内 容

（1）これまでの取組、成果等について

- SNS等メディアコントロールに関する実態把握と、実態に応じた取組をどのように進めているのか、情報を共有することができた。
- 「届けたい所に届ける」ための具体的な方策について話し合い、応援企業との連携により、多くの方への周知を図ることができそうだという見通しが持てた。
- まず、家庭教育を支援する立場の委員が、携帯・スマホを安全に使うためにどうすればよいのか、専門的な知識を持つ講師を招いて、フィルタリングのつけ方など、基本的な内容について研修していく必要があることが明らかになった。
- 今回の話合いで出された、「届けたい所に届ける」方策について、実際に取組ながらよりよい方法に改善していくことが必要である。



(2) 協議

○問題提起



課題の洗い出しによって自撮り被害の急増や被害の低年齢化、フィルタリングの未設定の現状などが明らかになってきた。このような現状を「より多くの家庭（親子）に学びの機会をどう届けるか」ということが問題としてあげられる。

インターネットやSNSとのつきあい方に関してさまざまな資料・パンフレットがあるが、どこが問題なのか、どう対応すべきなのかということ、どのように多くの家庭に届けるかというアプローチの仕方に焦点を当てて協議を深めていただきたい。

また、問題点のみでなくメディアのメリットにも触れつつ、それぞれの立場から御意見をいただき、家庭教育の推進につなげていきたい。



○SNS等に起因する事犯について

「子ども達を携帯の危険から守るのは私達大人の役目！」

エックスモバイル会津店 弓田 春菜 氏

親がスマホ依存になっている場合も多く、親がやっているからということでスマホ依存になっていく子ども達が多く、難しいと感じています。

2012-2019の調査で全体の85.1%の方がスマホを所持している状態です。普通の携帯が11.3%, 残りの4.6%がスマホも携帯も持っていないということです。10代の子ども達の普及率はスマホが89.0%, 普通の携帯が7%, 4%が未所持。その中でも、小学生のスマホ所持率は74.3% (高学年), 中学生で90.3%, 高校生が98.1%というのが現状でした。

預けっぱなしが一番怖い。これは、保護者の方にも店側から強く言っているところです。平成30年に法律が改正されてフィルタリングを設定して使わせることが保護者の義務となりました。フィルタリングの仕組みとしては、専門の業者によるURLのリスト・アプリなどの分析が行われます。18歳未満の子が使うというのが分かれば、必ずフィルタリングの設定をお話ししますので、「後でやります」ということはできないようになっています。

携帯よりも親子のコミュニケーションが大切であることも知ってほしいと思います。保護者の方も忙しくて疲れているのは分かるのですが、ルール作り一つでもコミュニケーションを取ってほしいと強く訴えているところです。

「スマホ18の約束」を聞いたことはありますか？ 少し古いのですがアメリカの家族の話で有名になった物です。お子さんが中学生になったので、スマホを持たせる際にお母さんが作ったルールだそうです。18の中でいくつかをのせてみました。こういったルールやフィルタリングのことでお子さんと話し合っ、お子様の人生を守ってあげたいと思います。日々のお子さんとの会話を大切に安心・安全にネットワークライフをお過ごしいただければと思います。

【グループ協議】



第1グループ

親子のコミュニケーションの充実が根本にある。

スマホに関しての宣言等、色々出ているが、それが実行できているかという疑問がある。情報を届けたい所にどう届けるか、早い段階でのルール作りが必要という共通認識を持った。

第2グループ

PTA の講座・講演で繰り返し実施していくことが大切。就学時健診，入学説明会などでの家庭教育の講座を繰り返し行っていくこと。町独自で共通のルールを作って地域で共通でルールを守っていく取り組みなどで，共通認識を持っていくことが大切。リーフレットや宣言等をどう活用していくかが課題。



第3グループ

まず，親の教育。それから，地域の方では母親学級や乳児検診で伝えていくこと。医療機関では，妊婦さんに病院の方でも，胎児に及ぼす悪影響を話していくようにする必要があるのではないか。

企業の研修時に警察を呼び，研修を行うなどがあったとしてもよいのではないか。



【全体会】

- 継続的に何回も何回も根気よく発信していくことが大切だと感じた。
- 就学時や検診などで，親に対して SNS についての啓発を図ることを忘れずに行っていくことが必要なのではないか。
- 自動車免許の場合は更新時にきちんと，講習を受けさせたり，ビデオを見せたりするのと同じように，子どもがスマホを安全に使用する上でのルールやマナー等についてスマホ会社でも伝達していかなければならないという企業のモラルの向上をお願いしたい。
- 次年度につなげるために，これから，やれるところから次年度の実現化に向けて進めていくことができるようにしていきたい。できるところまでやって検証して，次年度につないでいただければと思う。



【まとめ】 ○成果 ●課題

〈成 果〉

- 昨年度までの取組経過や成果等の報告により，共通理解のもと協議を行うことができた。
- 携帯会社スタッフによる事例紹介等を通して，SNS等のトラブルの現状やフィルタリングの実態などを把握し，委員間で危機感を共有することができた。
- 「届けたいところにどう届けるか」というアプローチの仕方に焦点化した話合いにより，具体的な方向性が見えた。また，KJ法によるワークショップ型の話合いにより様々なアイデアをいただくことができた。一例として「就学時健診」など各種講座・研修会などを活用し，継続的に根気よく啓発していくことが求められる。

〈課 題〉

- 実践できるところから各委員それぞれの取組が期待できるが，次回までは期間があるので，継続的な検証が難しい。情報を収集し，連絡調整を図りながら2回目の会議につなぐことが課題となる。